

西東京市子宮頸がん予防ワクチン予防接種説明書

○予防接種の効果

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)への感染を予防します。

○予防接種後に起こりえる症状

発生頻度	サーバリックス(2価)	ガーダシル(4価)	シルガード9(9価)
50%以上	疼痛、発赤、腫脹、疲労	疼痛	疼痛
10%～50%未満	かゆみ、腹痛、関節痛、頭痛など	紅斑、腫脹	腫脹、紅斑、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、かゆみ、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、かゆみ、発熱、疲労、内出血など
1%未満	知覚異常、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、出血、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血、血腫、倦怠感、硬結など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

※ 重い副反応として、まれに、呼吸困難やじんましん等(アナフィラキシー)、手足の力が入りにくいなどの症状(ギラン・バレー症候群)、頭痛・嘔吐・意識低下(急性散在性脳脊髄炎(ADEM))等が起こることがあります。

○次の方は、接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱している(通常は37.5℃以上)
- ② ワクチンの成分によって過敏症を起こしたことがある
- ③ 重い急性疾患にかかっている
- ④ 医師から接種を受けないほうがよいと言われた

○次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 血小板が少ない、又は出血しやすい
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患がある
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱がみられた
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある、又は近親者に先天性免疫不全症の方がいる
- ⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性がある
- ⑦ 現在、授乳中である

○接種後の注意事項

- ① 接種後、アレルギー症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難)が起こることがあるので、すぐに帰宅せず30分程度は安静にしてください。また、接種後1週間は副反応の発生に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- ② 接種後は接種部位を清潔に保ち、揉んだりこすったりしないでください。接種当日の入浴は問題ありません。接種後丸1日は、過度な運動を控えましょう。
- ③ 接種後に気になる症状が発生した時には、予防接種を行った医師や東京都の相談窓口にお問合せください。
＜東京都の相談窓口＞
保健医療局 感染症対策部 防疫課 電話:03-5320-5892
受付時間:月曜日から金曜日 午前9時から午後5時(祝日、年末年始を除く)

○健康被害救済制度

予防接種によって健康被害が発生した場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときには、予防接種法に基づく救済を受けることができます。申請手続きは、健康課までお問合せください。

○その他

- ① ヒトパピローマウイルス感染症の子宮病変に対するワクチンの有効性は、概ね16歳以下の接種で最も有効性が高いものの、20歳頃の初回接種までは一定程度の有効性が保たれるといわれています。また、性交経験がない場合はそれ以上の年齢についても一定程度の有効性があることが示されています。
- ② 従来の定期接種の対象年齢(小学6年生から高校1年生相当)を超えて接種を実施した場合においても、明らかな安全性の懸念は示されていません。
- ③ 子宮頸がん予防のためには、子宮頸がん予防ワクチンの接種後も、子宮頸がん検診や性感染症予防対策を行うことが重要です。

